

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

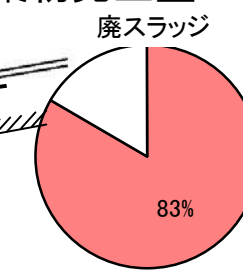
- ①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
  - ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
  - ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中
- ②廃棄物発生量
  - ・除染装置室内の放射線環境改善を目的としたスラッジの排出により、廃スラッジ貯蔵量は増加
- ③処理水タンク貯蔵量
  - ・淡水化装置(RO方式)による処理により、処理後の淡水受タンク及び濃縮塩水タンク貯蔵量は若干の変動あり
  - ・蒸発濃縮装置は全台停止中
- ④5、6号機滞留水貯蔵量
  - ・構内散水によりF・Hエリアタンクの貯蔵量は減少傾向

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

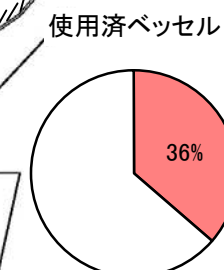
施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約14,300m <sup>3</sup>	OP.3.187
2号機	約22,000m <sup>3</sup>	OP.3.069
3号機	約24,400m <sup>3</sup>	OP.3.151
4号機	約19,100m <sup>3</sup>	OP.3.148
合計	約79,800m <sup>3</sup>	

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約13,460m <sup>3</sup>	OP.3.593
高温焼却炉建屋	約4,630m <sup>3</sup>	OP.3.253
合計	約18,090m <sup>3</sup>	

②廃棄物発生量

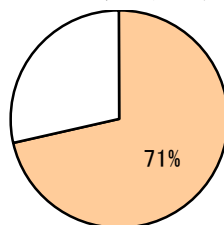


保管量:583/700[m3] ※3



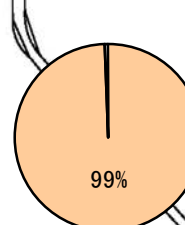
保管量:415/1137体 ※1

F・Hエリアタンク



水量:9923/13900[m3] ※3※4

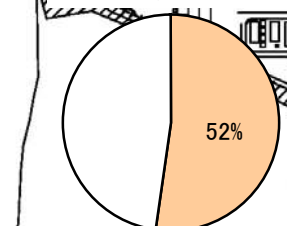
メガフロート



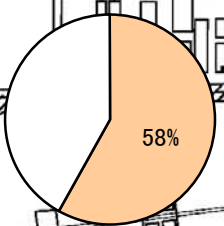
水量:7951/8000[m3] ※3

④5、6号機滞留水貯蔵量

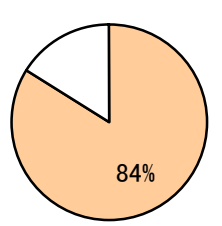
炉注水量  
1号機:156m<sup>3</sup>/日  
2号機:216m<sup>3</sup>/日  
3号機:168m<sup>3</sup>/日



水量:13115/25100[m3] ※2,3



水量:5508/9500[m3] ※2,3



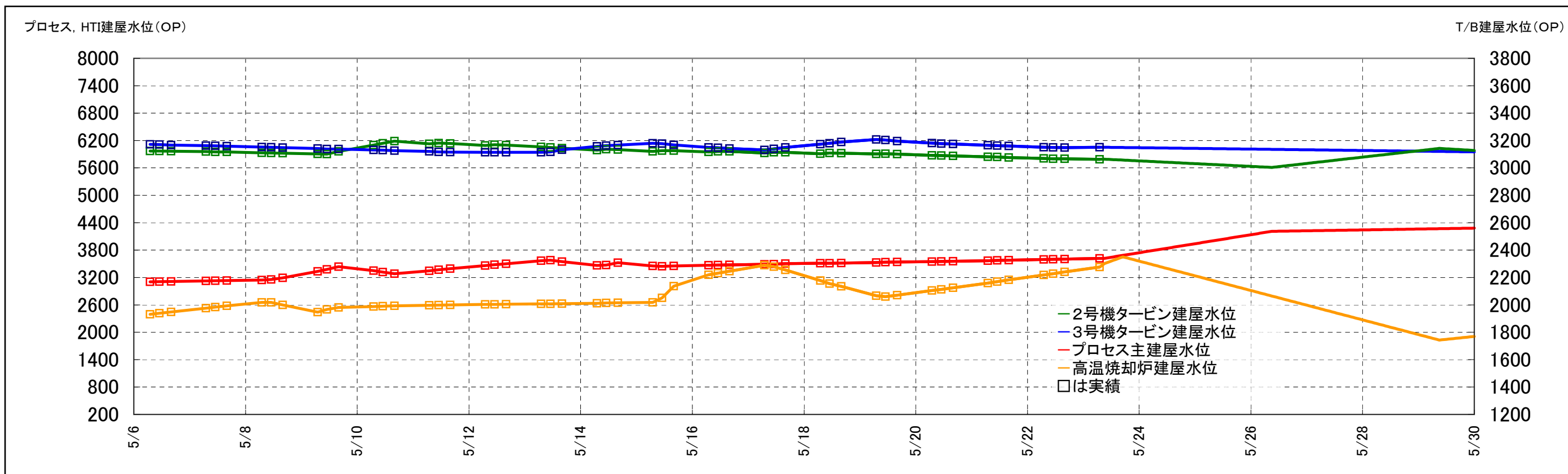
水量:137025/163500[m3] ※2,3

③処理水タンク貯蔵量

中低レベル(既設)  
 中低レベル(追設予定)  
 高レベル(既設)  
 高レベル(追設予定)  
 移送ホース布設ルート  
 淡水注水ルート

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセルを含む  
 ※2 装置稼働中につき水位が静定しないため参考扱い  
 ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す  
 (タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てして表記)  
 ※4 Hエリアの増設タンクのうち、3千トン分を5,6号機滞留水用に使用

2, 3号機タービン建屋及びプロセス主建屋, 高温焼却炉建屋の水位グラフ



処理装置の稼働状況

